

睡眠姦妊娠

Vol1.「智代」



天海智代(あまみともよ)
年齢34歳
身長156センチ
B94cm W58cm H96cm
クラブ『水無月』で働くホステス





その日、洋介は学校が終わると
寄り道もせずに家路についた。

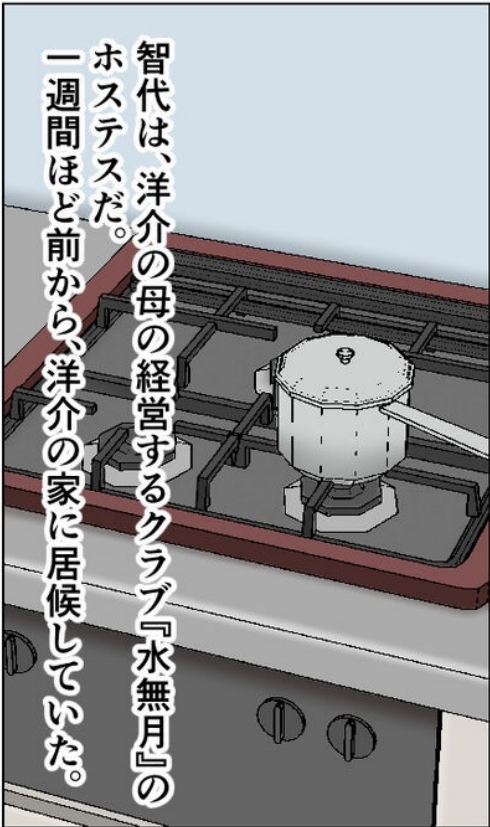






ママは美容院に寄ってから
直接お店に行くって。

さて、
夕飯の準備を
しなくちゃ。

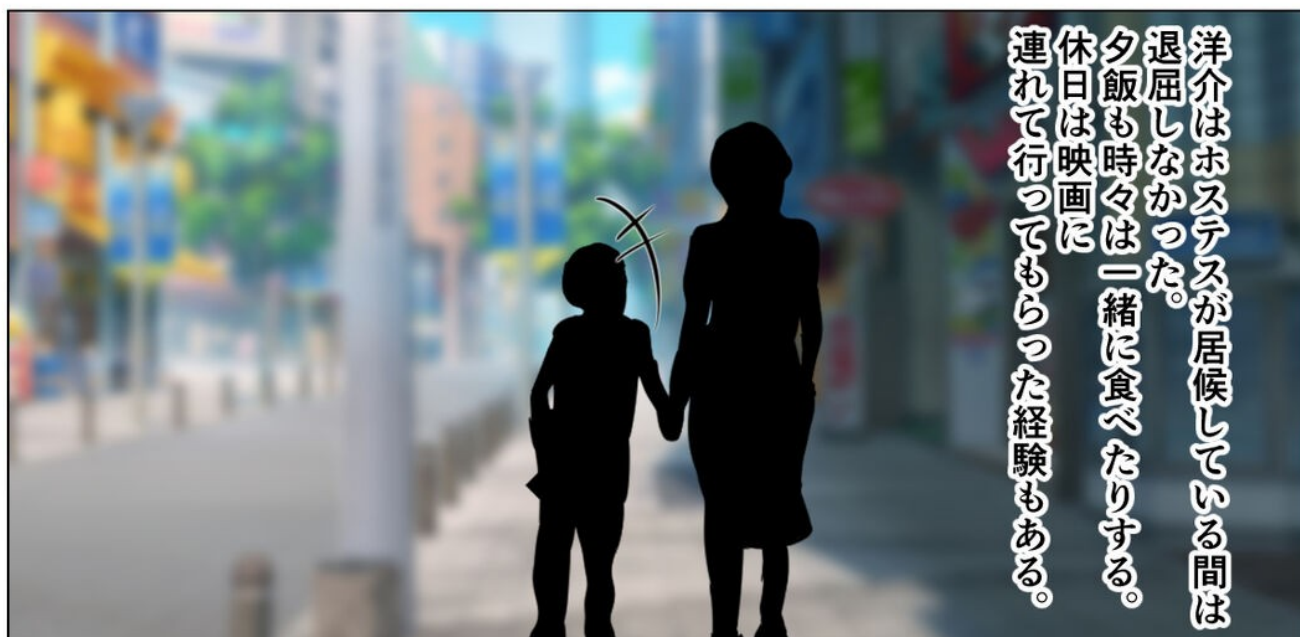


智代は、洋介の母の経営するクラブ『水無月』の
ホステスだ。
一週間ほど前から、洋介の家に居候していた。

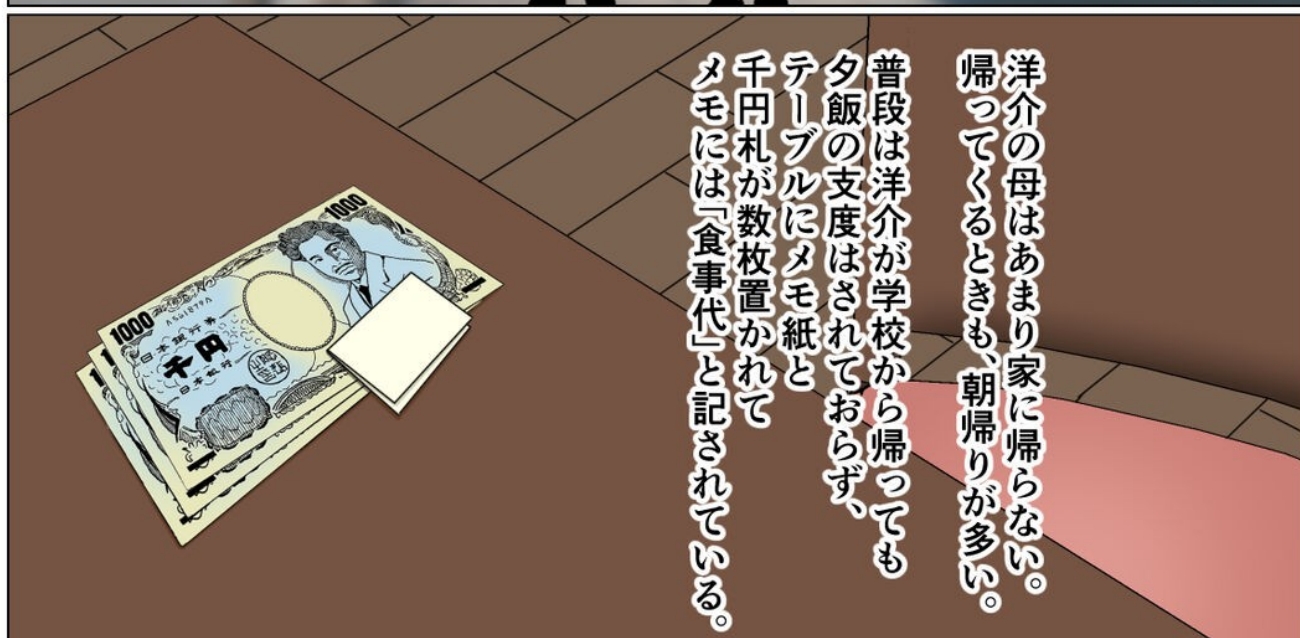


お店で働くホステスが家に住み込むのは珍しくはなかった。
今までに何度もあった。
たいていは数週間程度で引越していく。
正式な住居を探すための間の間の仮住まいなのだろう。

住み込んでいる間は、朝ご飯や夕ご飯を
作ってくれたり、簡単な家事もしてくれる。



洋介はホステスが居候している間は
退屈しなかった。
夕飯も時々是一緒に食べたりする。
休日は映画に
連れて行ってもらった経験もある。



洋介の母はあまり家に帰らない。
帰ってくるときも、朝帰りが多い。
普段は洋介が学校から帰っても
夕飯の支度はされておらず、
テーブルにメモ紙と
千円札が数枚置かれて
メモには「食事代」と記されている。



金融関係の職につく父親とは
別居状態。
洋介が父と顔を合わせるの
は数ヶ月に一度程度だ。

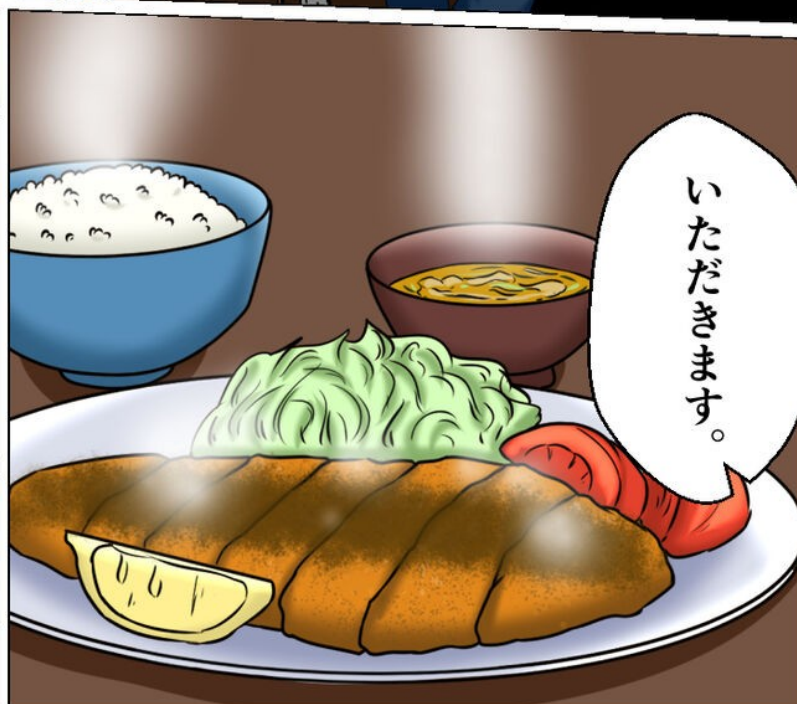
まず宿題を済ませた。



午後六時前、
夕飯ができたので、
洋介は智代と一緒に
食卓についた。



いただきます。



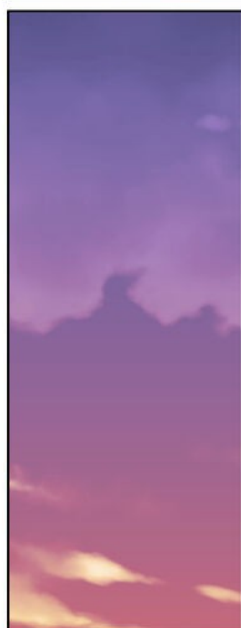
洋介君、
ごはん固くなかった？

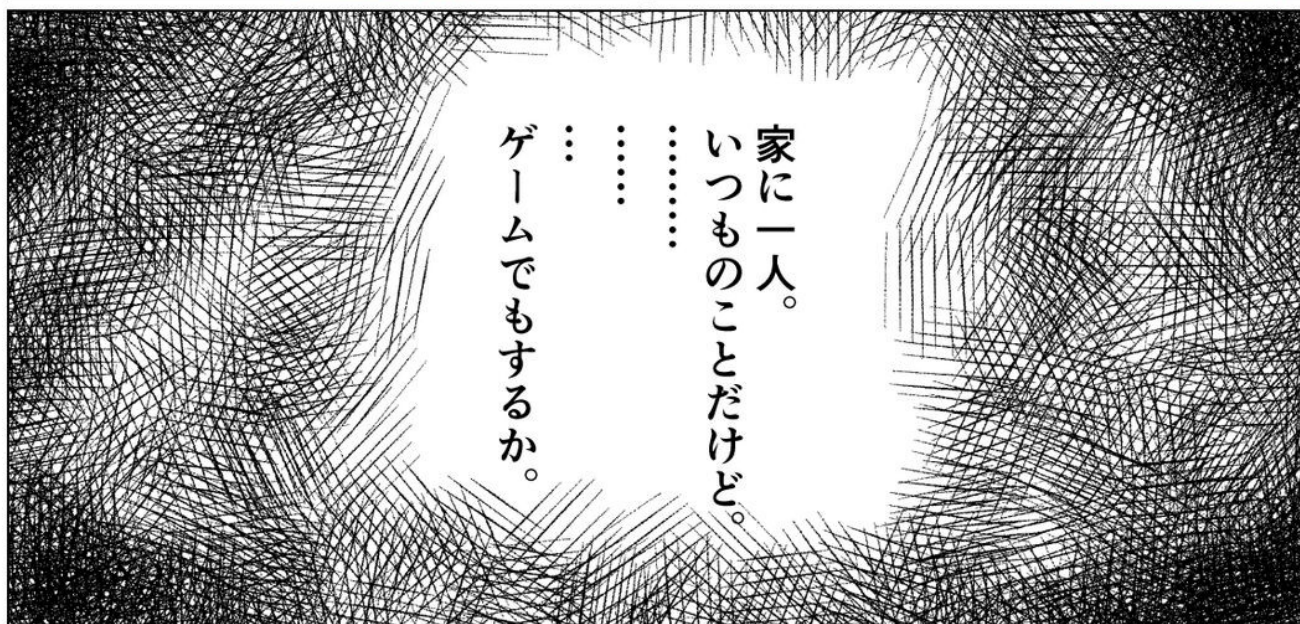


ちょうどいいよ。
美味しい。



良かった。





智代の部屋で
オナニーでもするか。

洋介は智代の部屋の
合鍵を持っている。
誰もそのことを
知らない。

洋介が精通を迎えたのは
数ヶ月前のこと。

少年は自室にこもり、
一人で自慰にふけり
何度も精液を放出した。

以前、洋介はホステスを
年の離れた友達ぐらいにしか
考えなかった。
だが精通後は、ホステスを女として
みるようになった。

ううっ

ドクドク

三四歳の智代は、
男のテリトリリーに入ってきた
格好の獲物といえなくもなかった。

智代の部屋

鍵を開けて……
お邪魔します……

時々鍵が
かかつてないことも
あるんだよね……

カキヤ

化粧品と
香水のにおい……

この前はブラジャーだったから、
今日はおパンツにするか。

智代の
おパンツ
みつけ。

おパンツは確か
このクローゼットの中だったはず。

ブラは大きいけど
おパンツは小さいんだな……

智代の
シャンプーの
ニオイがする……

ハア
ハア

おパンツの
ニオイを嗅いでみた。

洗剤の香りが強いけど
かすかに……
甘酸っぱいニオイが
するようない……

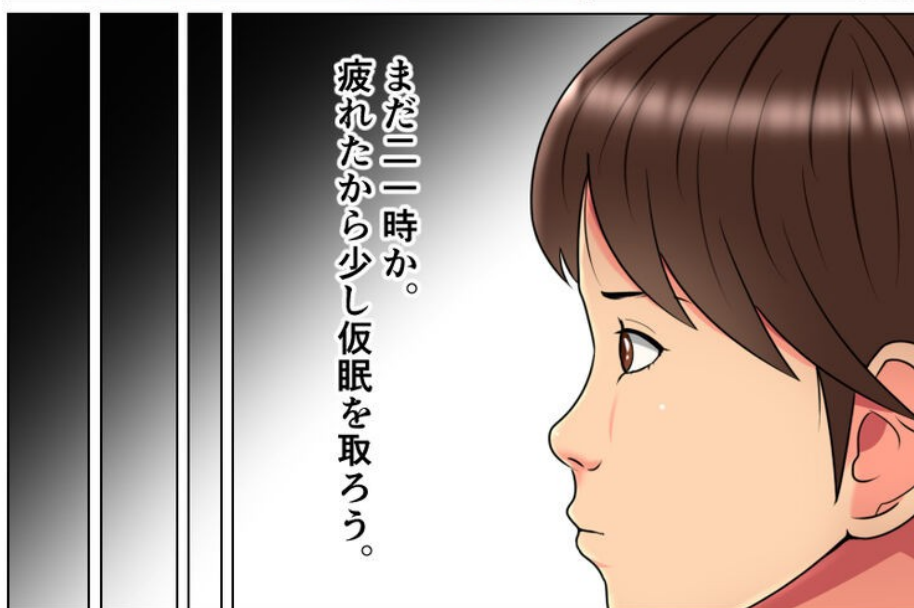
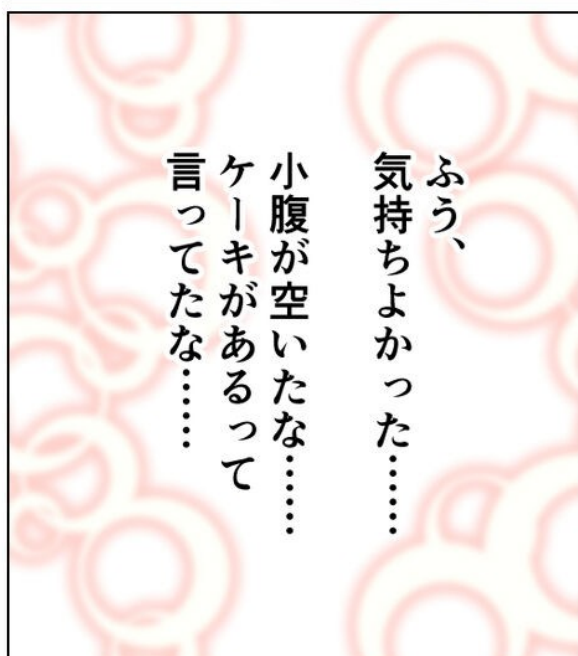
これが智代のニオイか……

いつもより固い……

ヒク……

ヒクッ

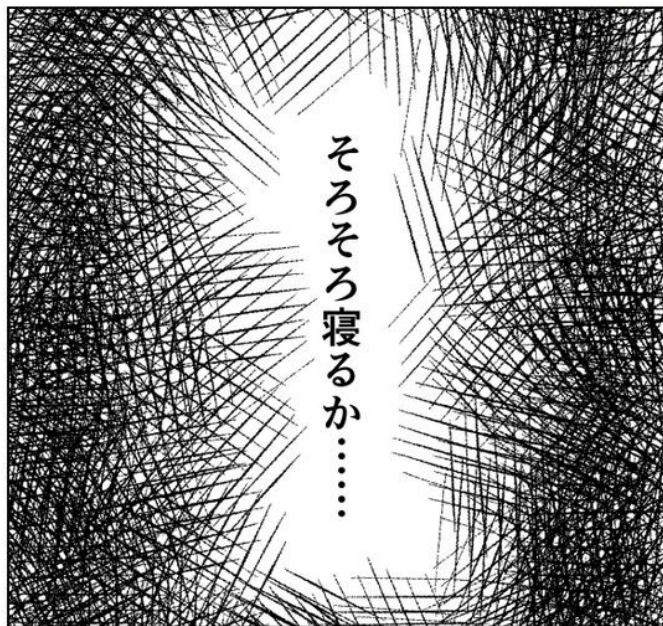
気持ちいい……



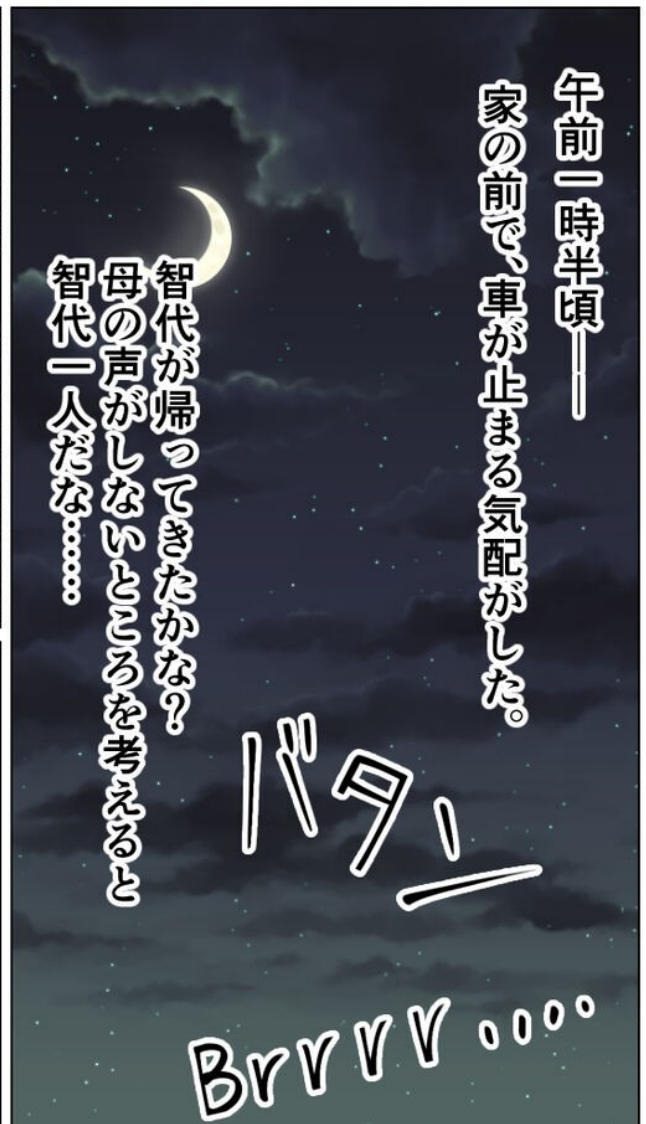


一時間もしないうちに
目が覚めてしまった。

テレビを観て時間をつぶしたが
一向に眠気はやってこなかった。



そろそろ寝るか……



午前二時半頃——
家の前で、車が止まる気配がした。

智代が帰ってきたかな？
母の声がないところを考えると
智代一人だな……

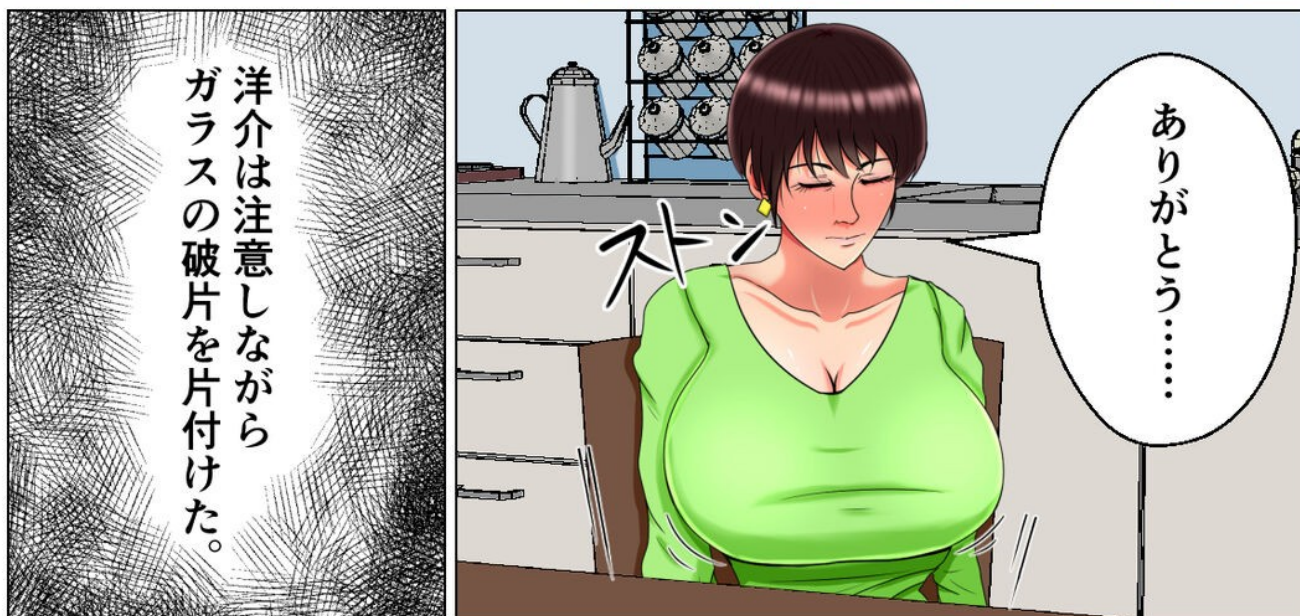
バタ、
Brvvv……



その時、
キツチンから
何かが割れる音がした。

ガキヤン





酔うと喉が
乾くらしい……
冷蔵庫に麦茶が
あったな……

麦茶、飲む？

ありがとう、
気が利くね。

ちょうど
喉が渴いていた
ところ。

な、なんか
エロい感じ……

おいしい。

ほっ

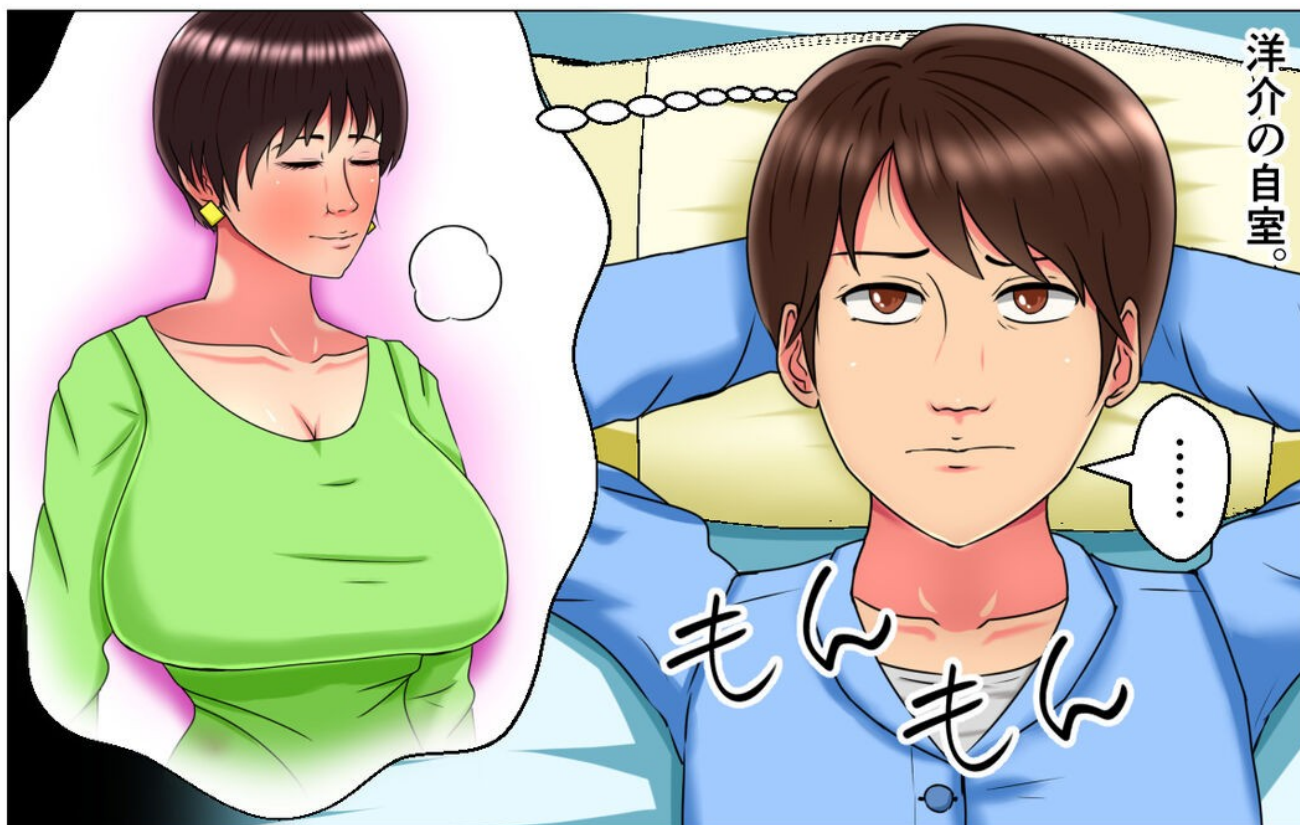
智代の息って
甘い匂いがする……
これって、
お酒のニオイなんだろうか。

もうこんな時間。
洋介君、明日も学校でしよう？

ごめんね。
わたしのせいで。

大丈夫だよ。
あまり眠たくないし。

洋介の自室。



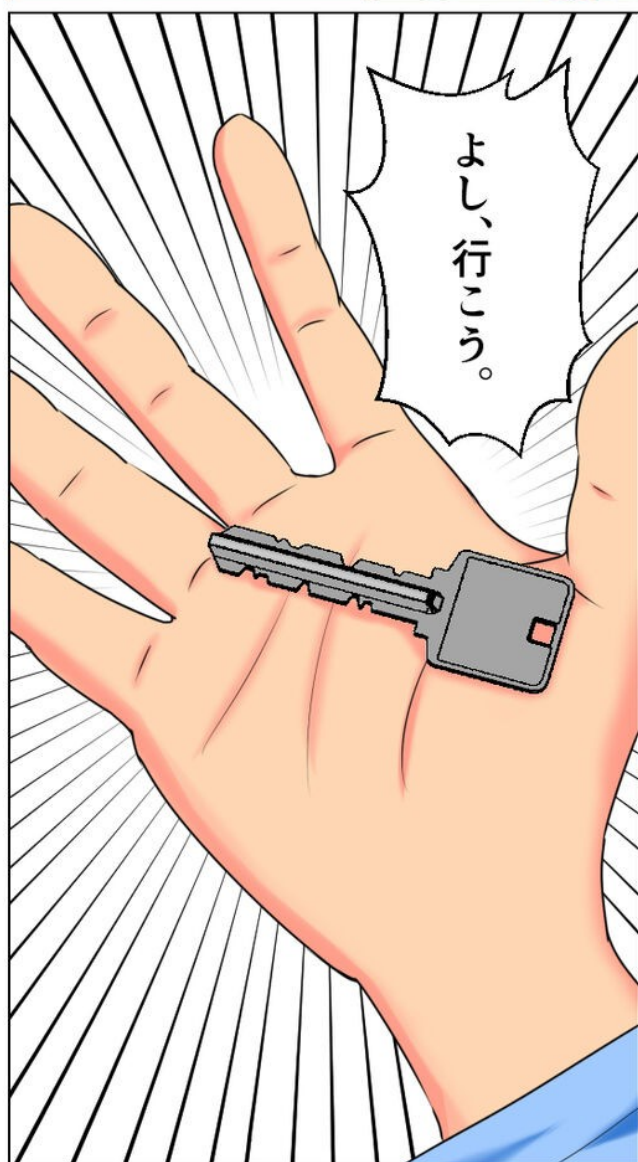
智代のことを考える
ムラムラする……
もう一回オナニーしようかな……

智代のオッパイって
柔らかいのかな……



しばらく
物音がしていたが
やがて静かになった。
智代は自室に
引き上げたようだ。





智代の部屋の前。

本当に
眠っているのかな？

何も聞こえない。

耳を澄ましていると
部屋の中から寝息が
聞こえてきた。

ノブを確認するとあっさりと
回った。
鍵はかかっていたいなかった。

カチャ

いん

智代の部屋に何度も入ったけど
本人がいるときに入ったのは
初めてだ……

このニオイ……
アルコールと香水と化粧品と
それから智代の汗？ 体臭が
混ざって……
甘ったるいニオイ……

頭が
ぼうっとする……

大丈夫……
酔っ払って寝てる。
もし起きても
トイレの帰りに寝ぼけて
部屋を間違えたと
言えばいい……

ドキドキ

ズズズ



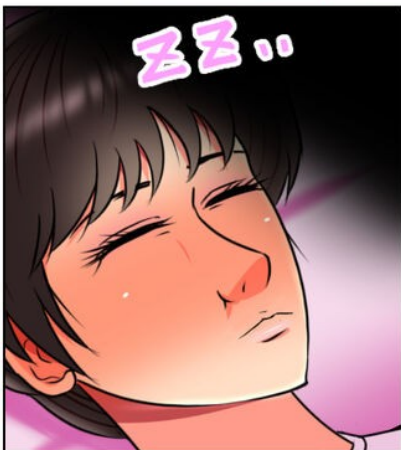
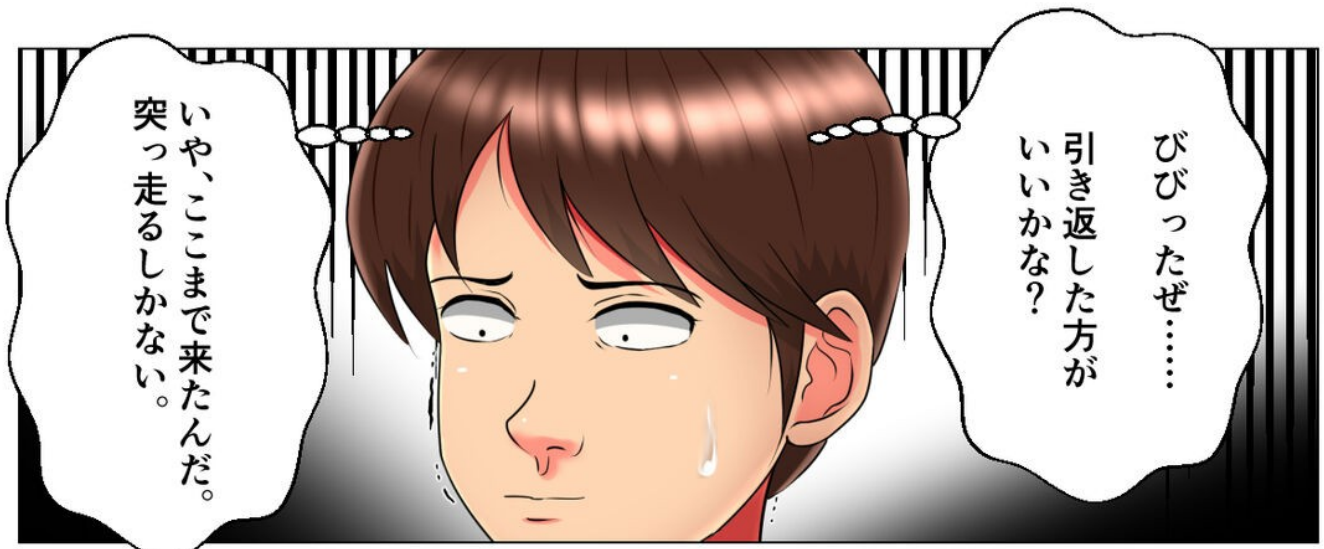


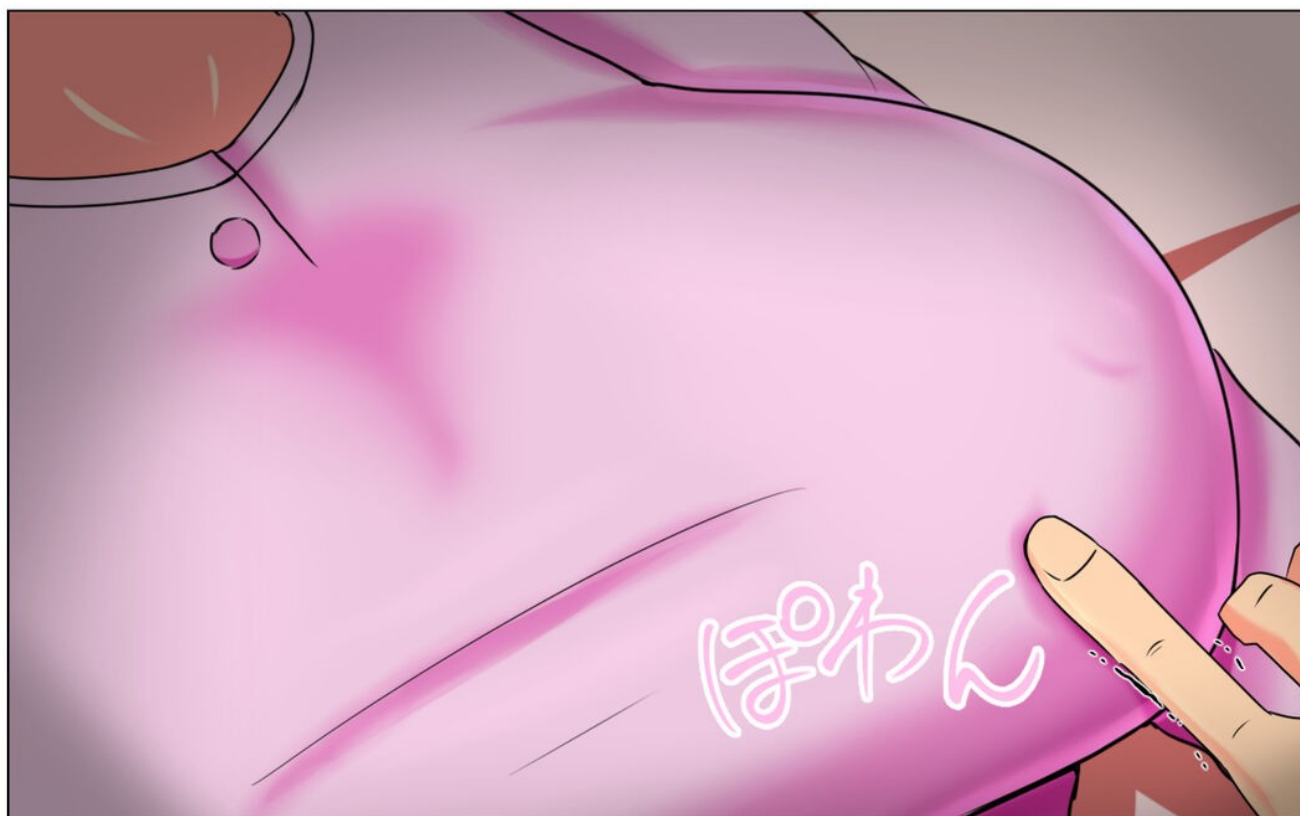
何も問題ない！
子供のころはこの部屋に
寝ていたことにすれば
信憑性が高まるかも……



な、なんだ……
寝返りを
打っただけ……？







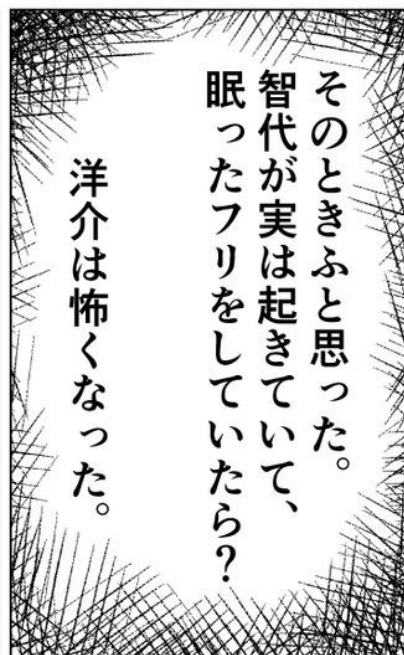
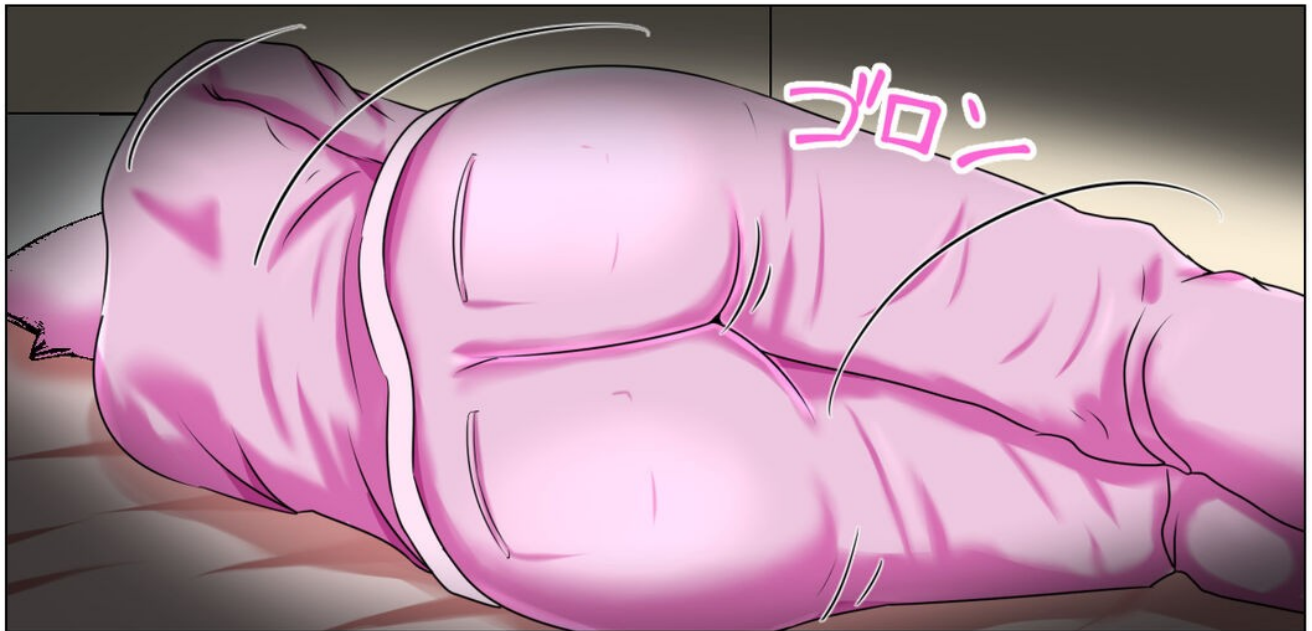
柔らかいだけじゃない。
内部に
しこりみたいな
少しだけ固い
感触もあるし……



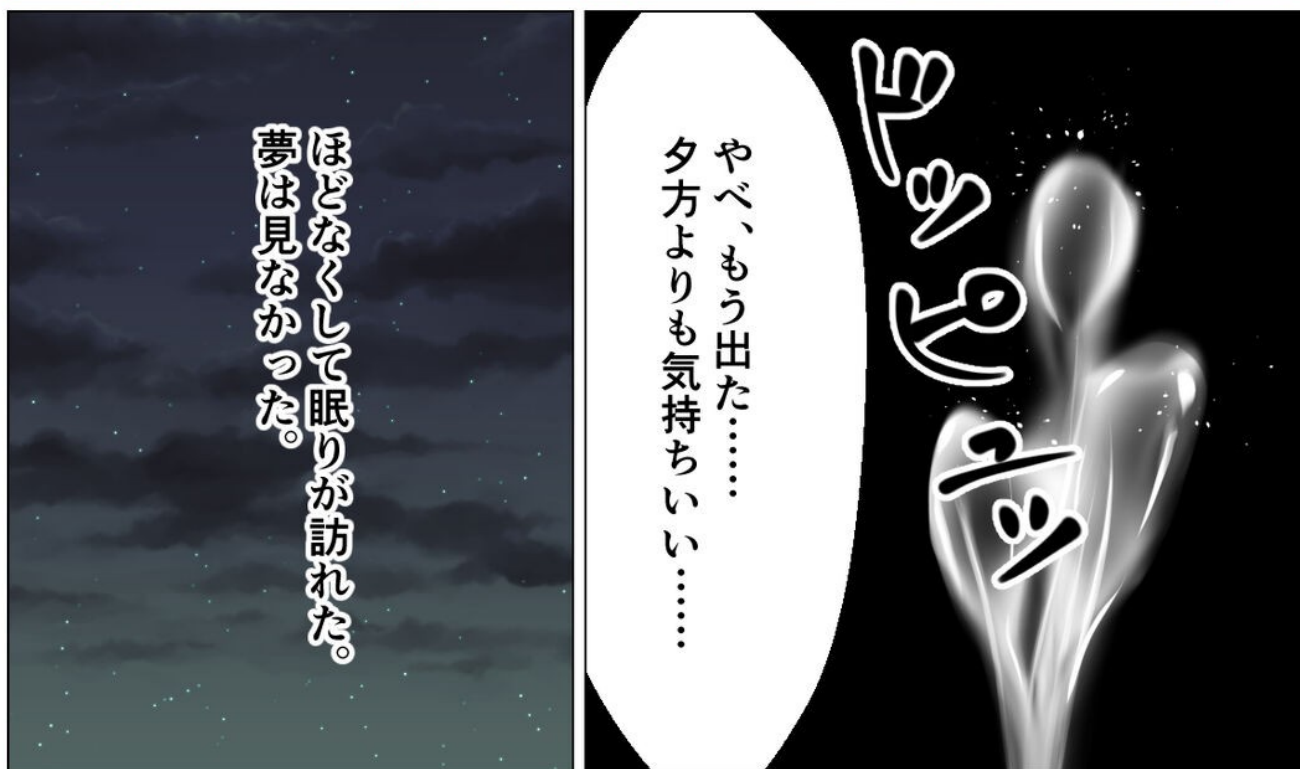
や、柔らかい……！



おっぱい全体から
立ち上ってくる
体温も感じる。

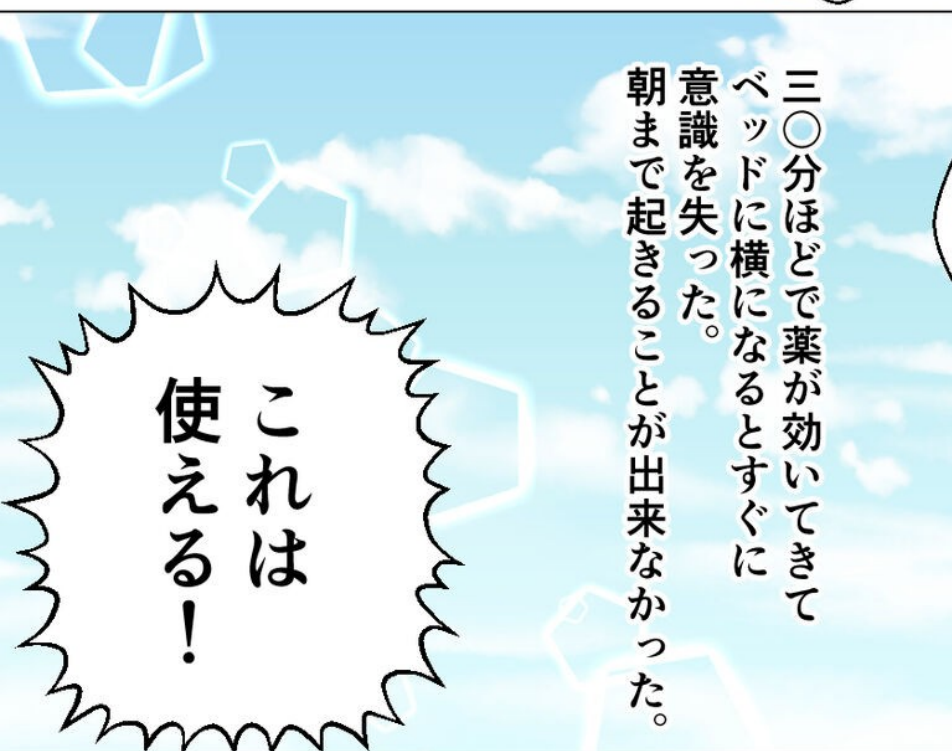
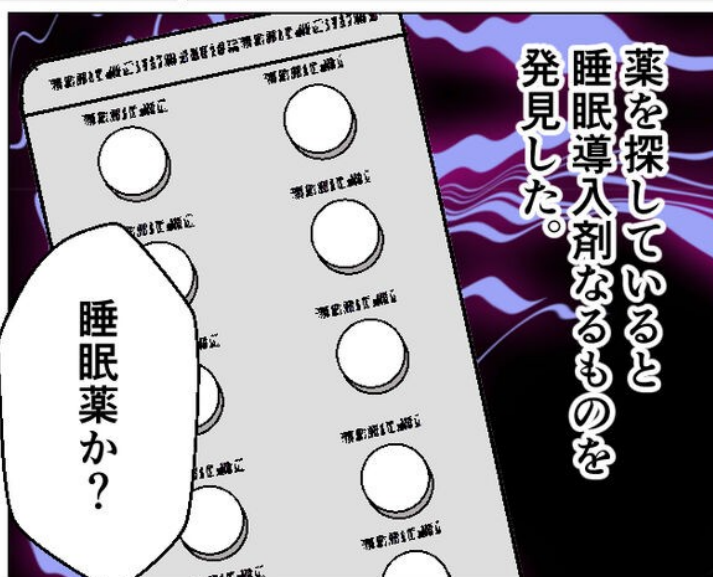
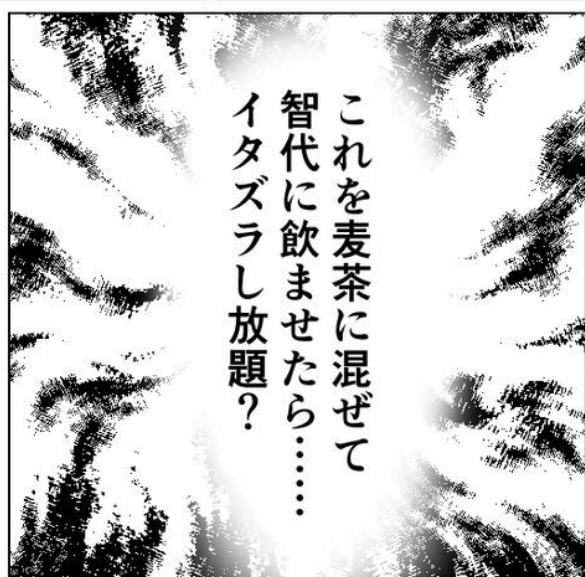
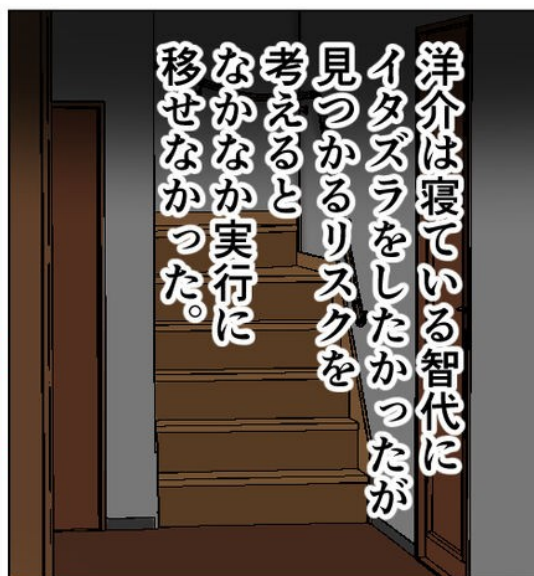


次はデッカいケツを
触りまくるか。





数日後。



絶好の機会が二日後に訪れた。

ただいまー

お土産だぞー

うら〜

めちやめちや
上機嫌……

たこ焼きー

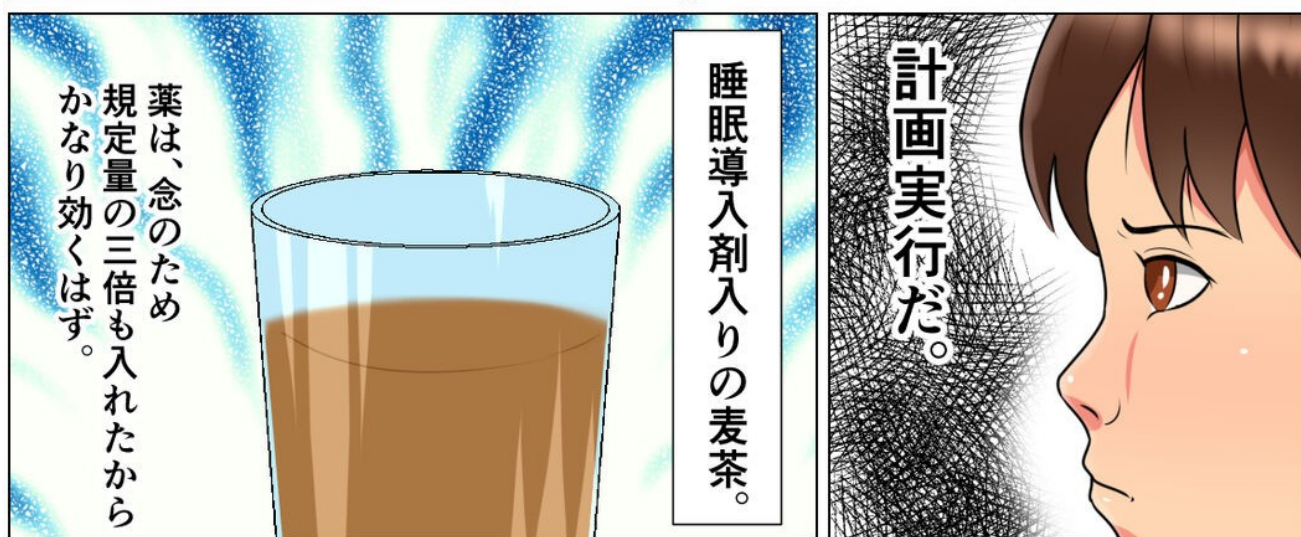
ありがとう。

ごめんねー

だ、大丈夫？

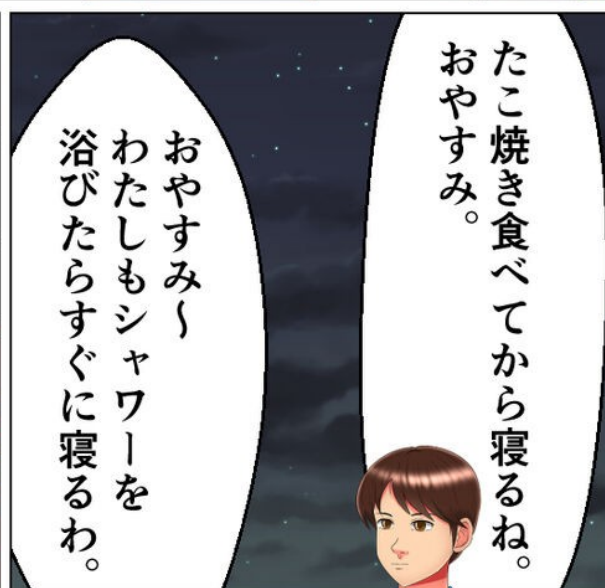
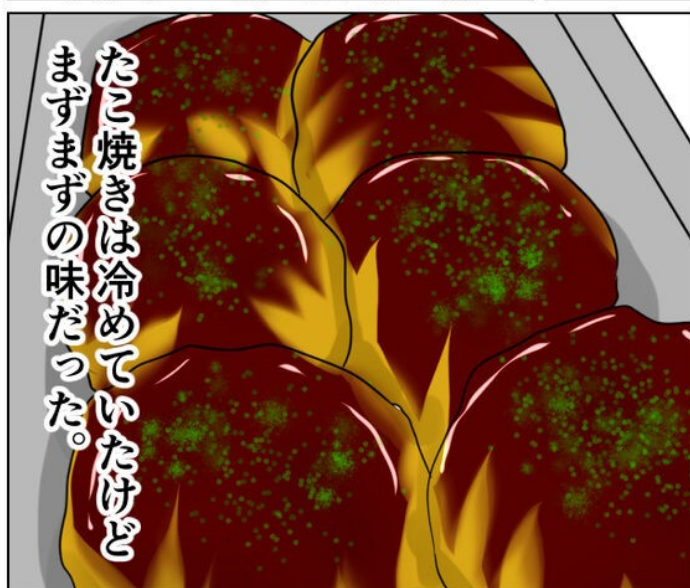
サッ

おっとっ





ぐくぐく



夜が更けていく――

ししっ

物音がしなくなってから
一時間ほど待ってみた。
時間の進みは遅かった。
しかし退屈ではなかった。
これからのことを想像すると
胸が高鳴った。

よし！
行くか！

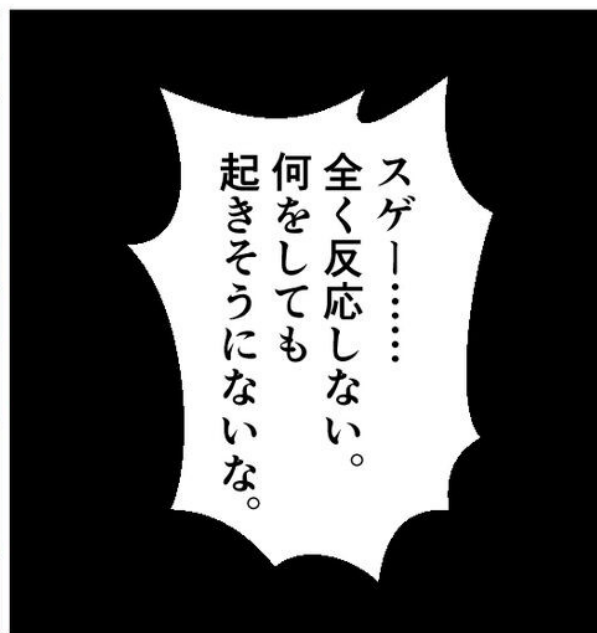
いざ！

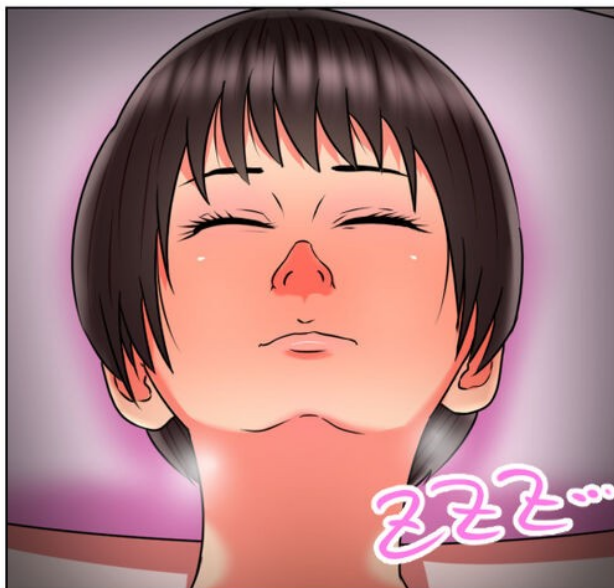
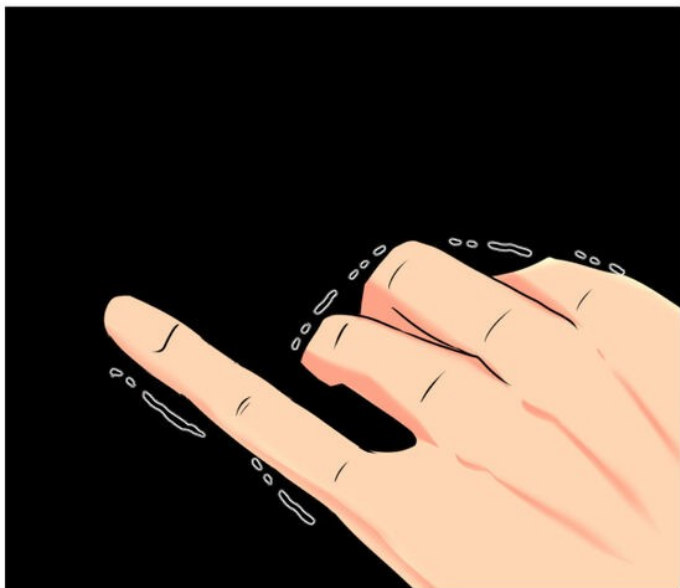
鍵はかかって
いなかった。

カチャ

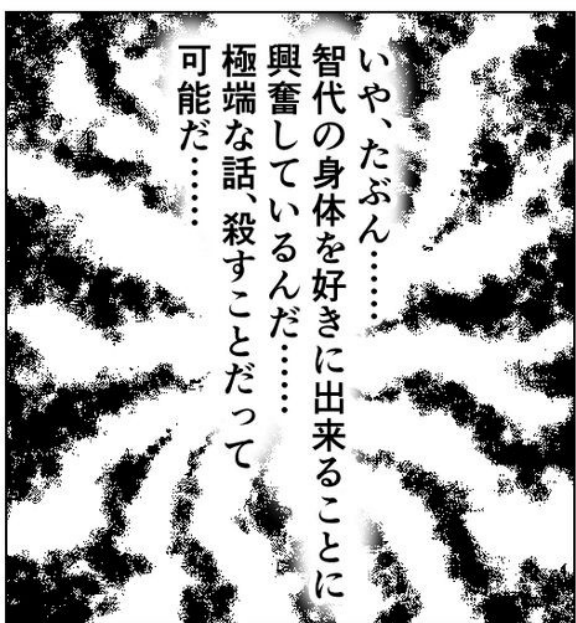
そっ







へへやっぱり何しても
起きるんだなや。

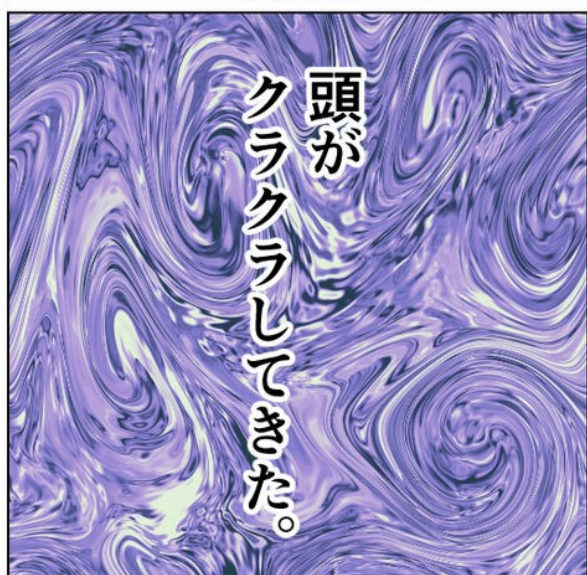


いや、たぶん……
智代の身体を好きに出来ることに
興奮しているんだ……
極端な話、殺すことだって
可能だ……

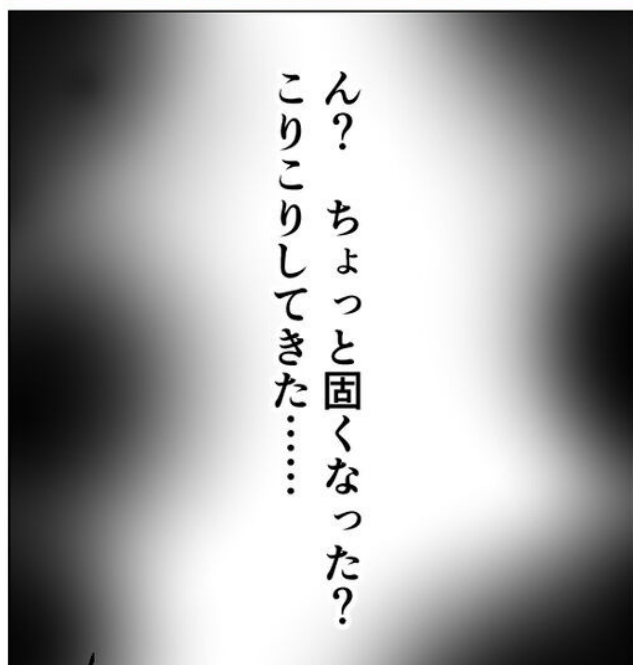


興奮してきた……

俺は変態かもしれないな……
智代の鼻の穴で
興奮するなんて……







おっぱいを
ナマで見たい……

脱がせるの
大変そうだ……

まくりあげるか。

これを上にやれば……

結構大仕事だぞ……





揺らして遊ぶ！

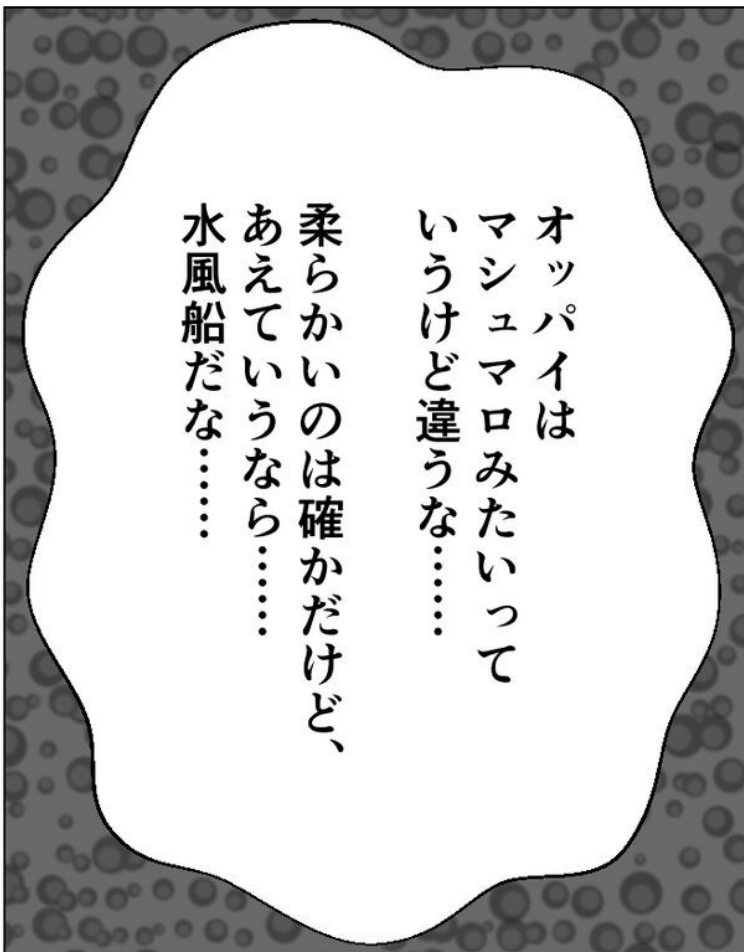
ぽよん

ぽよん

そよよ...



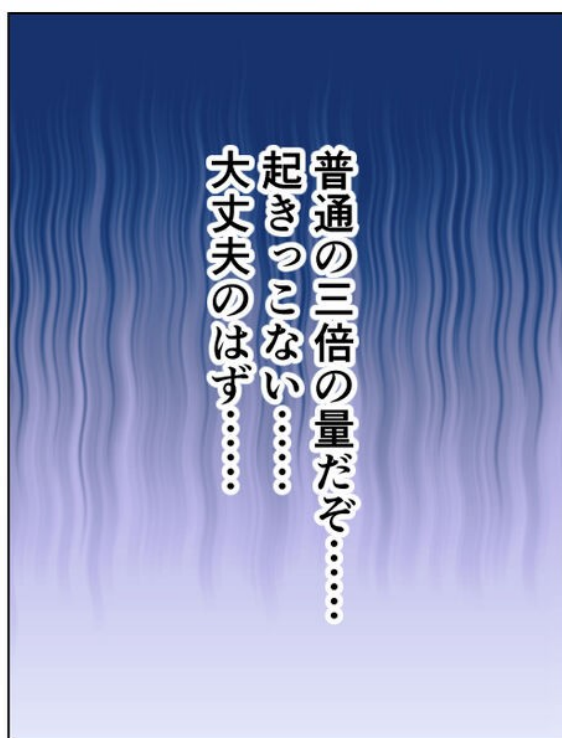
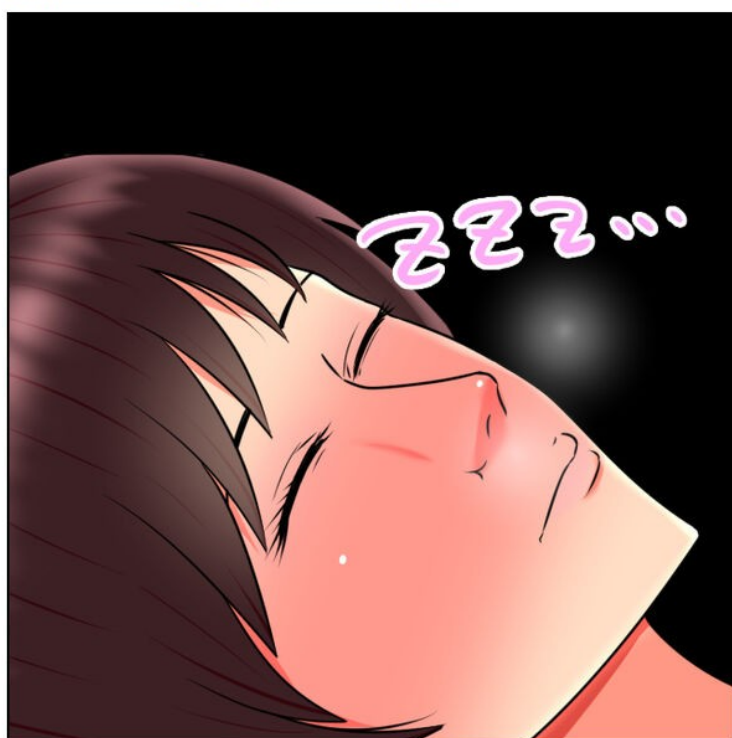
しゅっ...

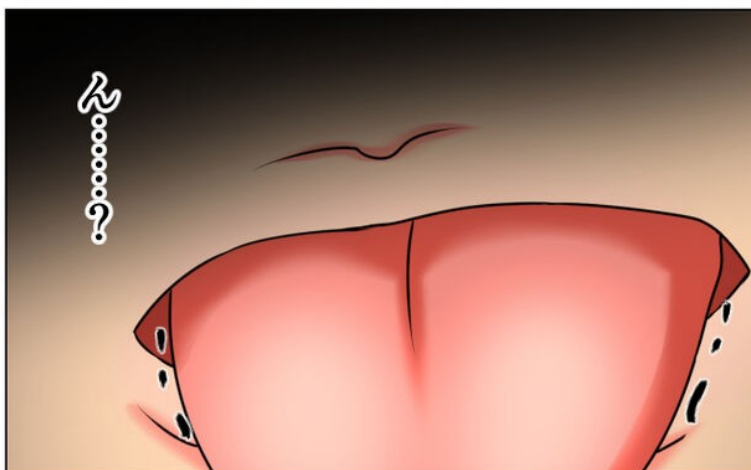
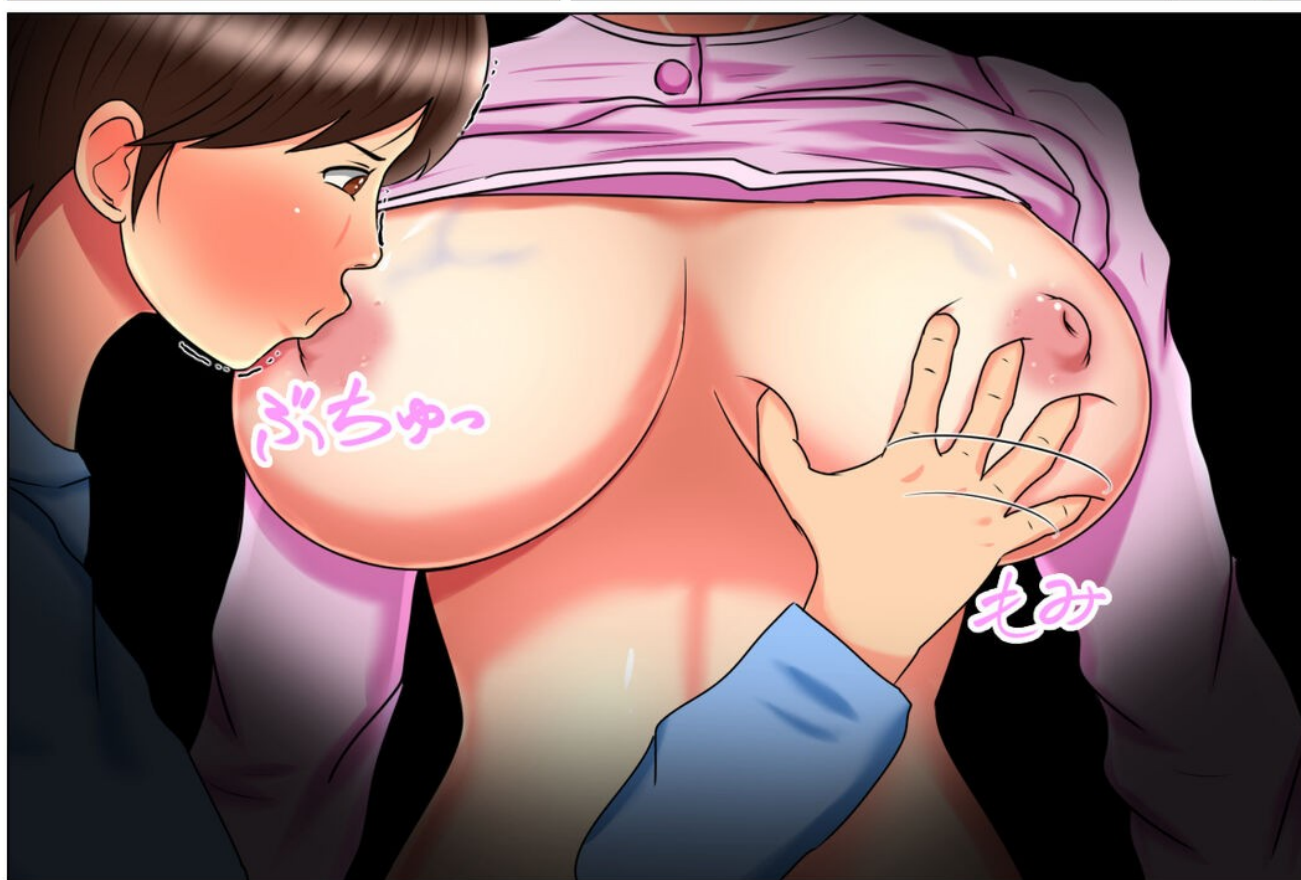


オッパイは
マシュマロみたいって
いうけど違うな……
柔らかいのは確かだけど、
あえていうなら……
水風船だな……



乳首って舐めたら
どんな味が
するんだろう……







強いて言うなら
塩味かな。

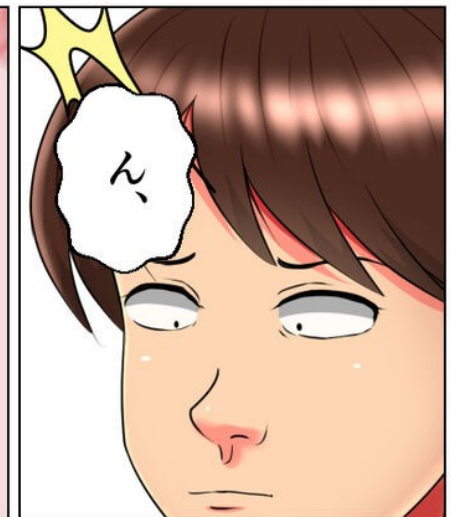
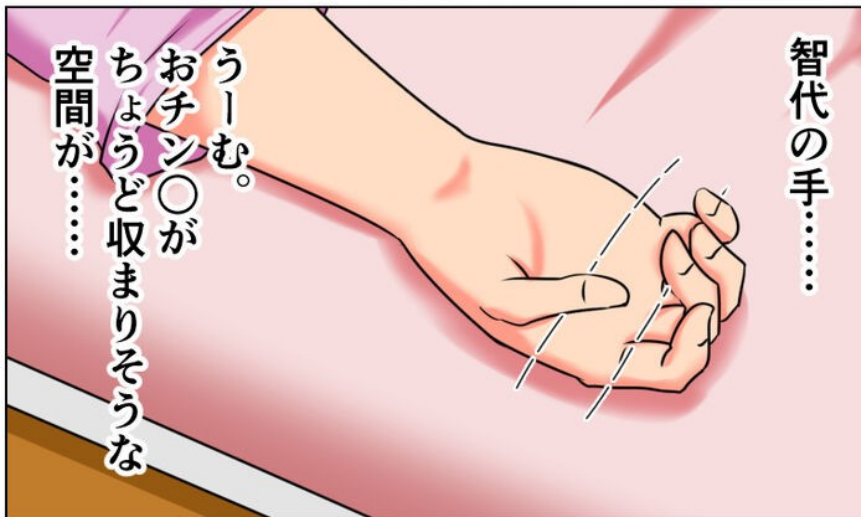
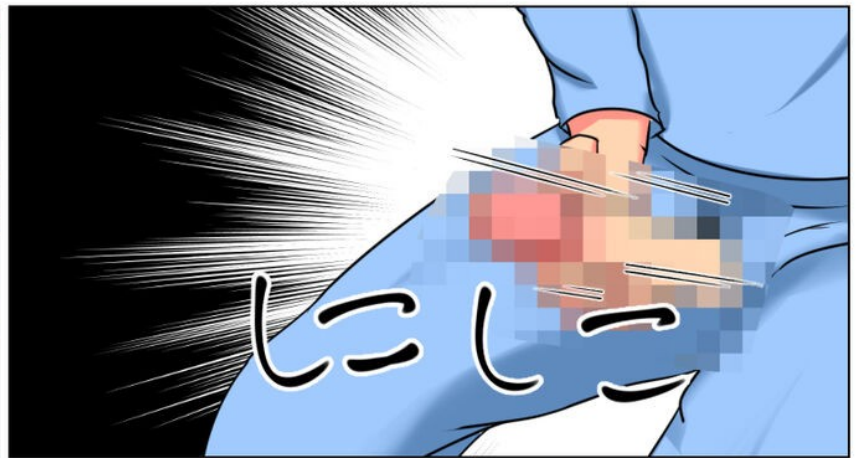


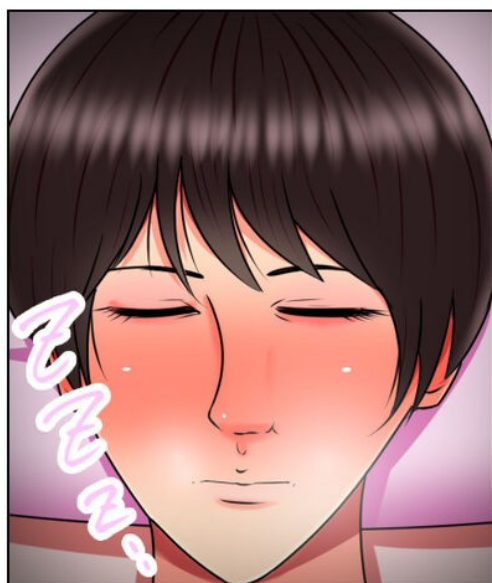
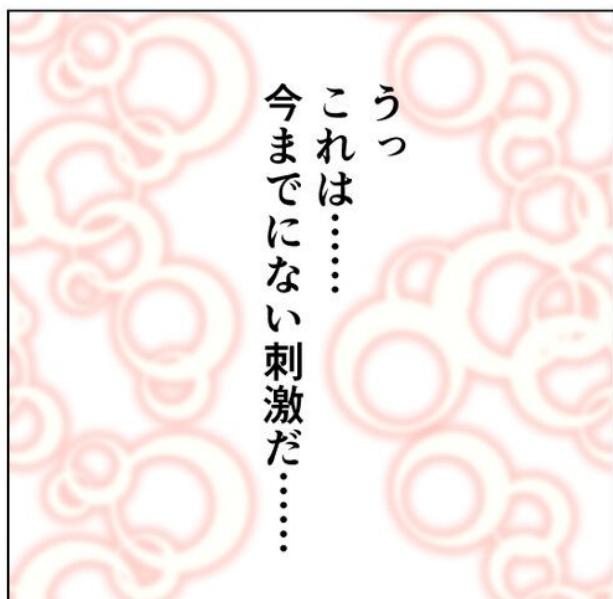
あつ
乳首が
大きくなってる！



ぶちゅっ

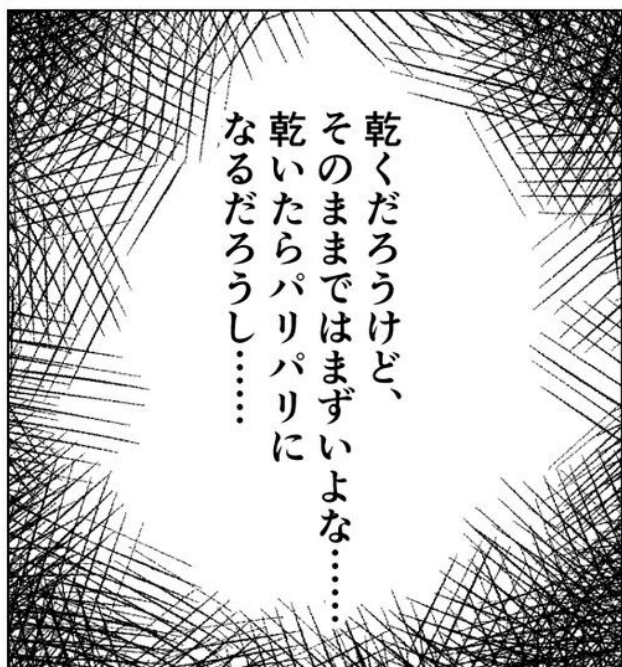
えええ...







ふう、
気持ちよかった。



乾くだろうけど、
そのままではまずいよな……
乾いたらパリパリに
なるだろうし……



どうしよう。
智代の手に射精しちゃった。



すっきりしたから帰るよ。
じゃあまたね。



シートにこすりつけておこう。
智代もまさか俺の精子だとは思わないだろう……

ふきふき





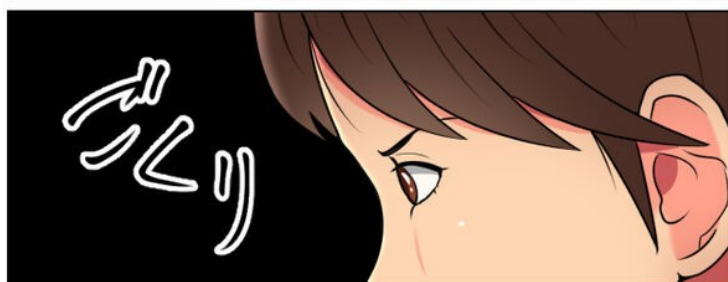
四回目の侵入。

おチチにも飽きたし
そろそろおケツにいくか。

もももも



それにしても
でっかいおケツだな。



まずは撫でて……

さわ～

揉んで、

おチチとは違う感触だ。
おケツのほうが弾力が強い……

撫で回す！

もみもみ

おチチもいいけど
おケツもいいね！

大きなゴムみたいな
手触りだ……

その日は
デッカいおケツに
精液をかけた。



精液は指でぬぐって
シャツにこすりつけた。

大胆すぎると
バレるかもしれない。
気をつけよう。



六回目の侵入。

今日は
ナマおケツで抜こう。

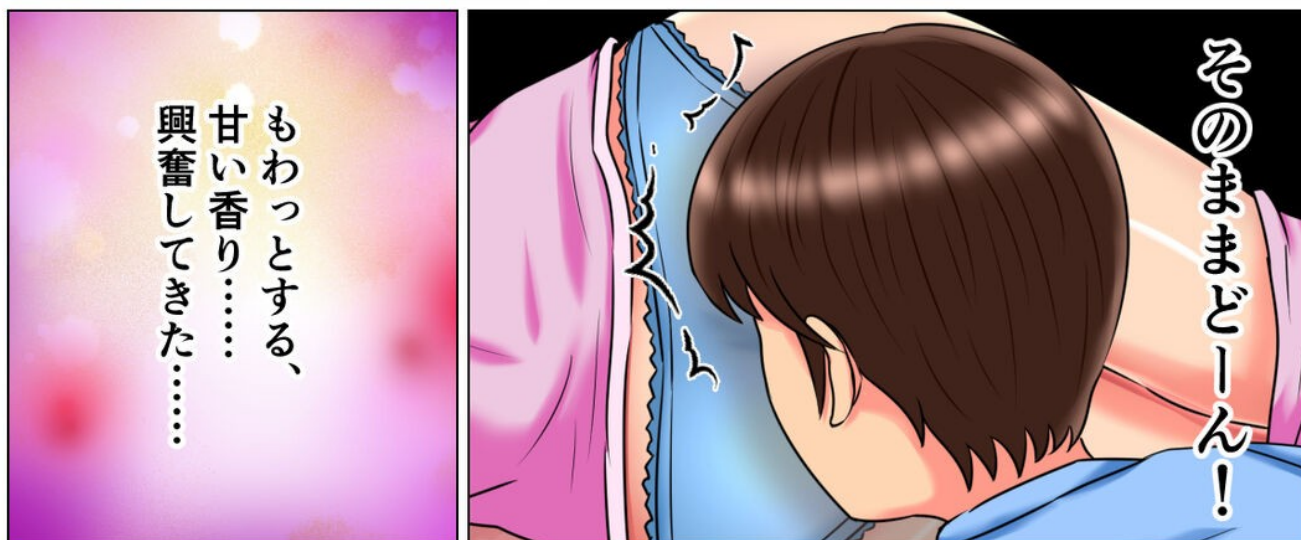


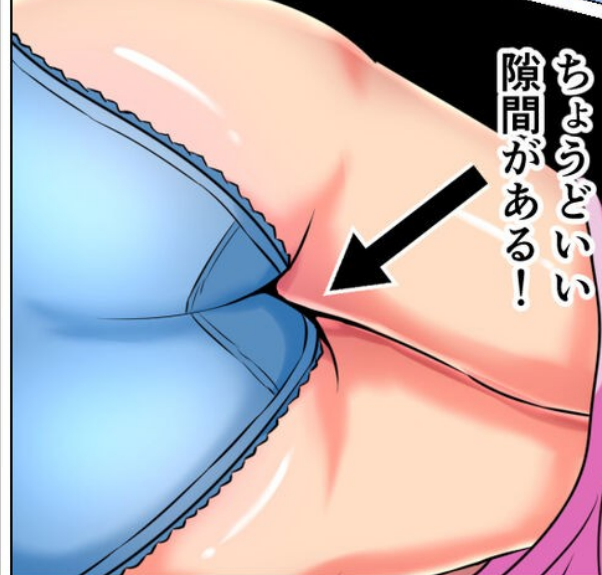
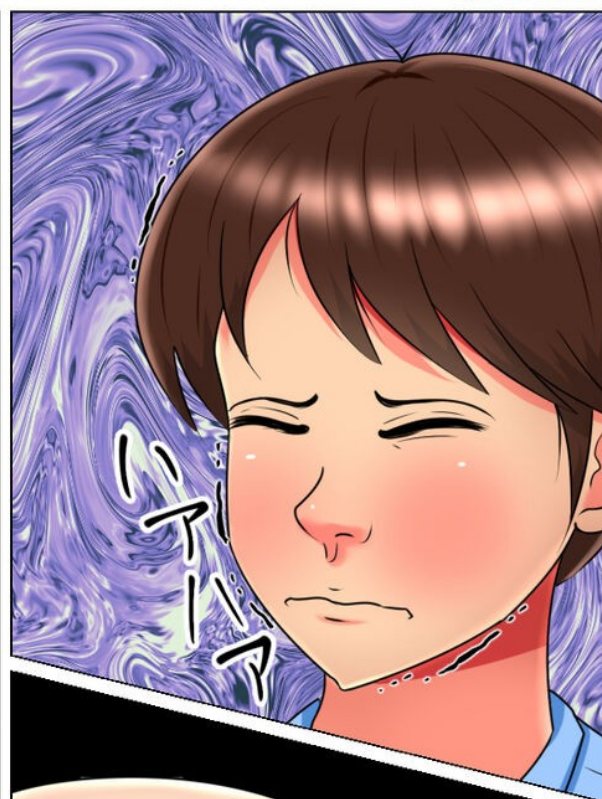
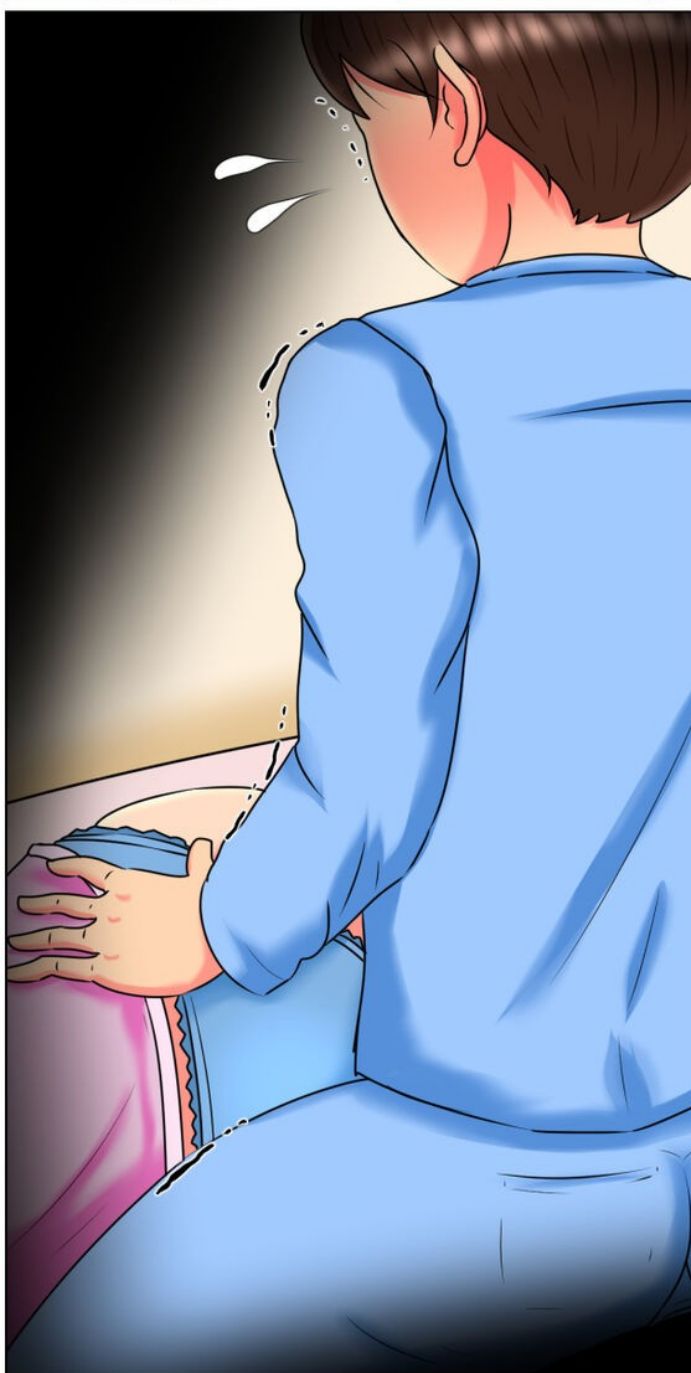
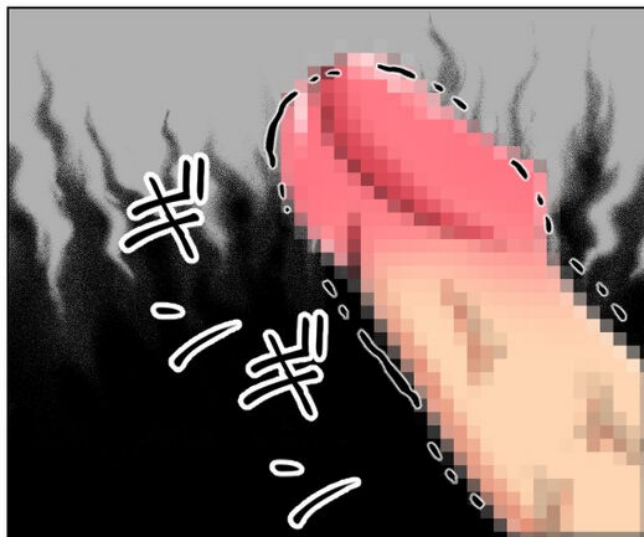
寝間着を
ずりさげる！

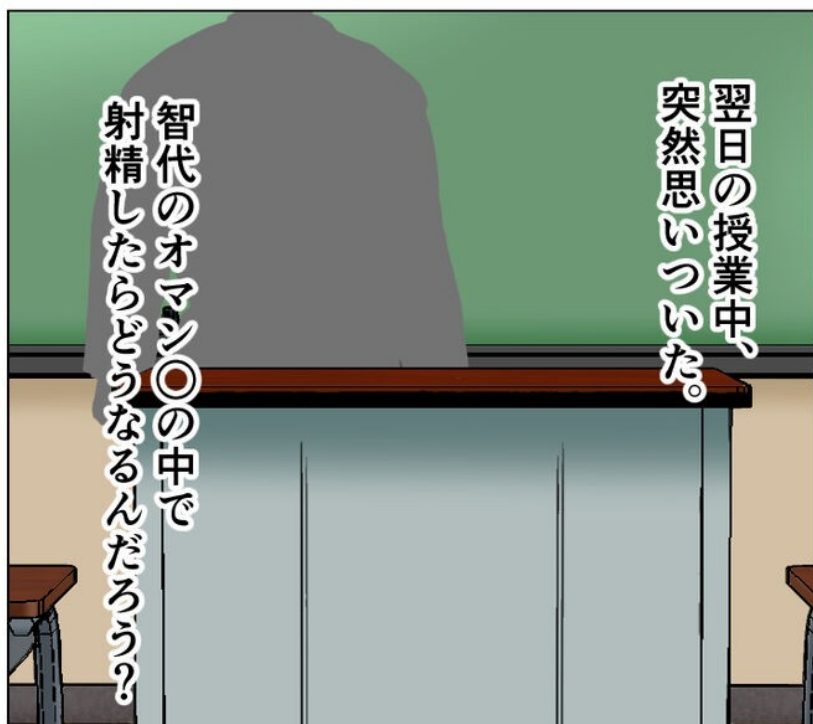
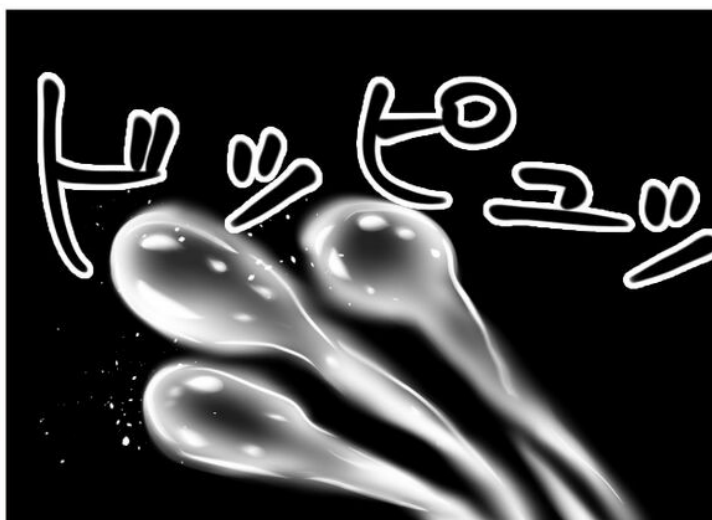


うわ……
生々しいな……









しかし
次の機会はなかなか
巡ってこなかった。

最近
十分寝ているんだけど
それでも眠いのよね。
一日中頭がフラフラする日も
あるし……

お、お酒の
飲み過ぎじゃない？

睡眠薬を通常の
三倍も飲めばそりゃ眠いはず。

ドギッ

そうなのかも……
呑む機会も多いし。

けど、
お酒を呑むのも
仕事のうちだからね。

……

しばらく機会はないかもと
覚悟していた翌日、
智代は酔って帰ってきた。
洋介は、睡眠薬入りの麦茶を智代に
差し出した。



今までの経験からすると
残された時間はわずかのはず。
睡眠薬を飲ませる機会もあと数回
だろう……

時間の進みは遅く感じられた。



今日こそは智代の
オマ○コをみてやる！

かちゃ

侵入するときは
いつも緊張する……



どうなっているか
指で確かめよう

.....
.....
.....



熱くて.....
湿ってる.....



ひだみみたいなものがある.....
ぷにぷにしてる.....

ん、このひだの向こう側の
ぽっちは何かな？

ぬるっとした豆みたい.....

もしかして
クリ○リス？



その突起を弄るたびに
智代は肩をびくんと震わせた。

ビクッ

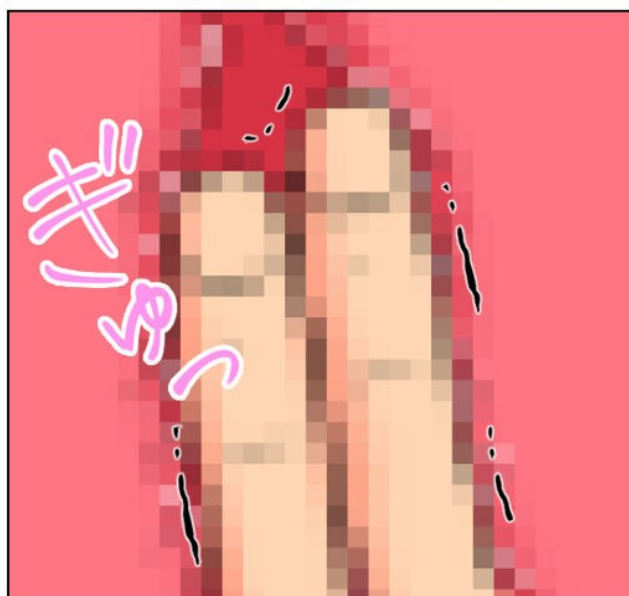


意識はないはずなのに
感じてるのかな.....
濡れてきた.....





最初、滲み出た汁は
サラサラだったが、
やがてトロトロした
液体に変わった。

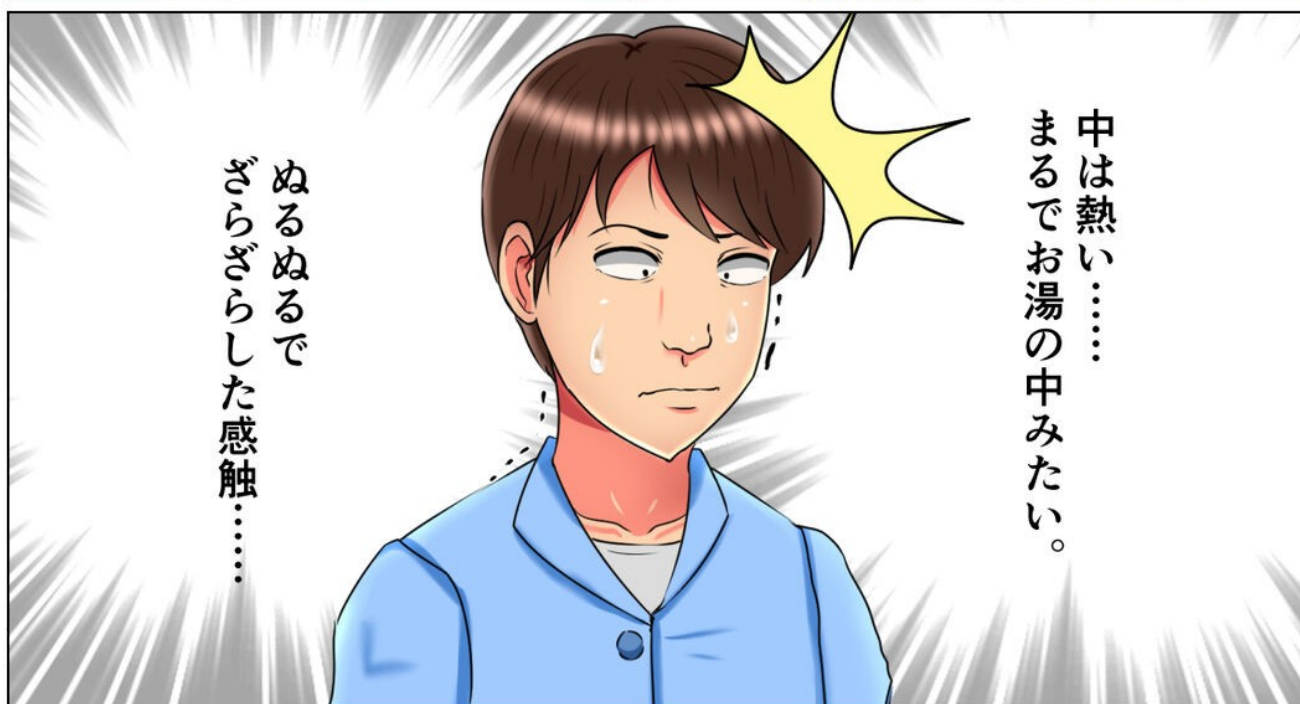


ザッ
ザッ



ひだを触っているうちに
指が内部に入った。

吸い込まれたみたいなの……



中は熱い……
まるでお湯の中みたい。

ぬるぬるで
ざらざらした感触……

指を抜くとべっとりと
濡れていた。

ねばねばしてる……

舐めてみると……
うーん
少ししょっぱい？

よくわからないね。

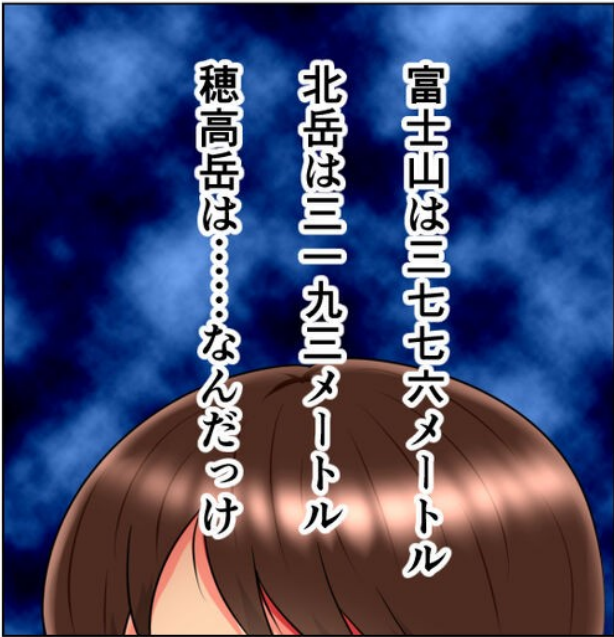
智代の体液をおチ○ポに
擦りつけてみた。

ヌルヌルして
気持ちいい……

ハァハァ



自分で出しても面白くない。
ここは我慢……



富士山は三七七六メートル
北岳は三一九三メートル
穂高岳は……なんだっけ



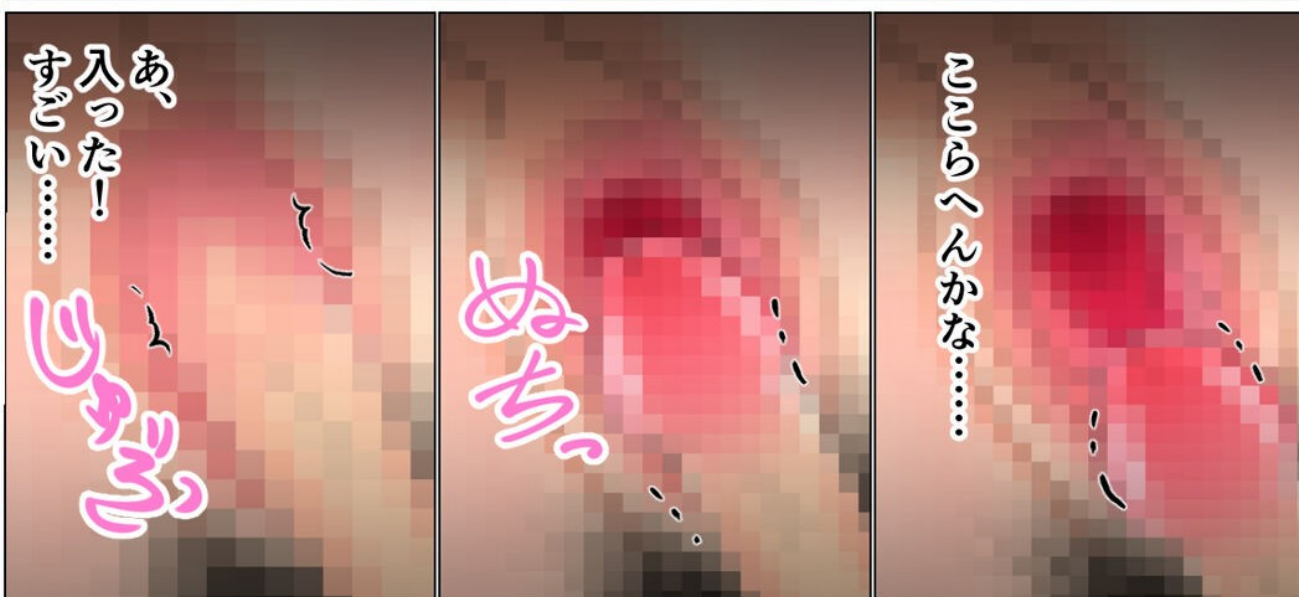
ふう、
だいたい落ち着いた。



それにしても
すごい濡れてる……
トロ



おチ○ポをオマ○コに
入れてみよう。







そろりと抜くと
大量の体液が零れた。

だーら...

さすがに放置して帰るのは
まずいな。
ティッシュで拭いとくか。

元に戻して――

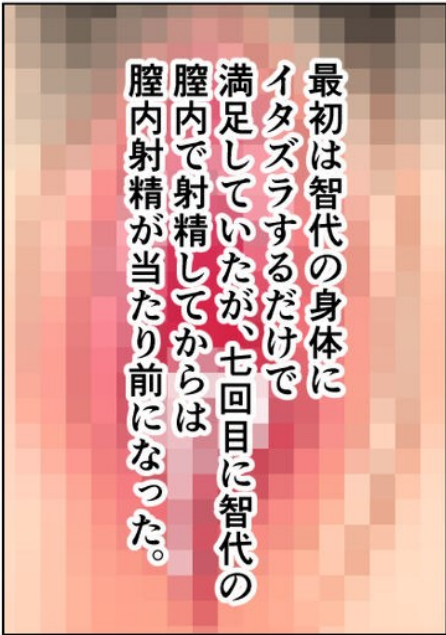
気持ちよかったよ。
サイコーだった。

その日は熟睡した。

ズンズン



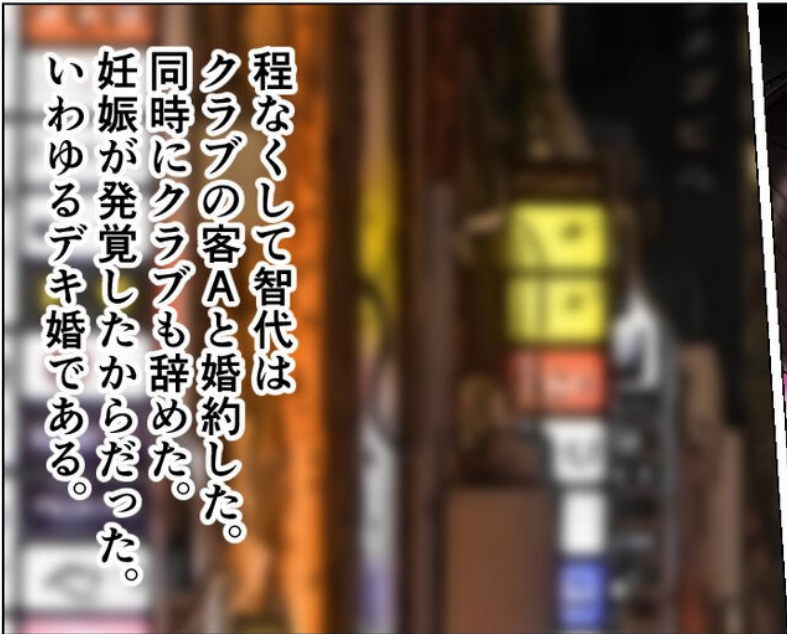
智代が居候していたのは
およそ一ヶ月弱。
洋介が深夜、智代の部屋に
侵入したのは十数回に及んだ。



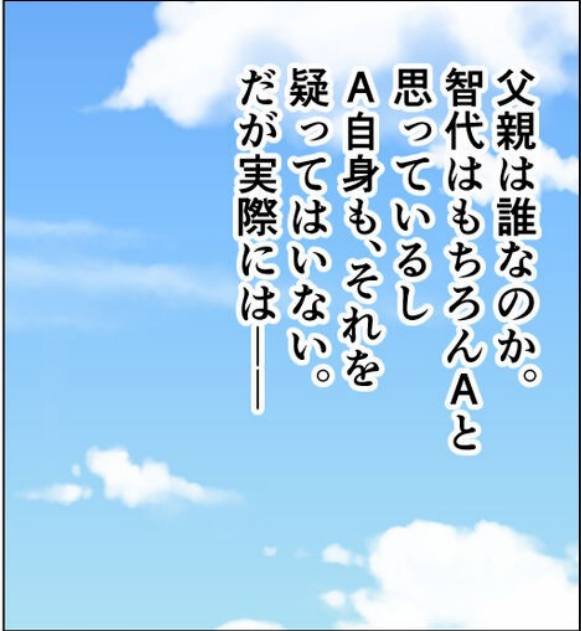
最初は智代の身体に
イタズラするだけで
満足していたが、七回目に智代の
膣内で射精してからには
膣内射精が当たり前になった。



智代は睡眠薬のせいで
少年に膣内射精を繰り返された
ことを全く知らない――



程なくして智代は
クラブの客Aと婚約した。
同時にクラブも辞めた。
妊娠が発覚したからだだった。
いわゆるデキ婚である。



父親は誰なのか。
智代はもちろんAと
思っているし
A自身も、それを
疑ってはいない。
だが実際には――



なんだか最近
少し大人になった気分？

ボツ絵です。





『睡眠姦妊娠』 Vol.1「智代」

2016年9月17日	配信開始
2018年3月12日	2版 作画と塗りの一部を修正
2018年12月7日	3版 作画と塗りを大幅に修正
2021年3月22日	4版 改題、全面改稿

制作：みんなの巨乳党(トリプルC)